

いのちの言の葉2012

富山県教育委員会平成24年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの授業」

小矢部市立津沢小学校
平成25年2月23日実施

【授業の概要】

- 1 一番の宝物
- 2 いのちのはじまり
- 3 胎児ちゃん
- 4 心臓の音
- 5 解剖生理

(保護者)

・本当にすばらしい授業をしてくださいありがとうございました。我が子が産まれてきた時の感動の瞬間を思い出しました。毎日忙しく過ぎてしまい、いろいろな大切なことを忘れかけていたように思います。これをきっかけに改めて子どもと一緒に命のことを考えていきたいと思えます。「生きているだけで百点満点」「誕生日はいのちの記念日」という言葉がとても印象に残り、いいなと思えました。

(児童)

・「いのちの教室」の授業を受けて、生まれてきてよかったなと思えました。ぼくたちは、最初は0.2mmしかなかったけれど、みんなのおかげでここまで成長していったんだと、とてもありがたく思いました。サッカーを今までしてきたことと、いつもみんなと遊んだり、勉強してきたりしたのは、全て家族がいるからだと思えました。

【いのちの先生】

金子 真理子先生

・厚生連高岡病院副看護師長、助産師、NICU 勤務

(児童)

・ぼくは、いのちは一つしかないので大切にしたいと思いました。赤ちゃんを産むとき、赤ちゃんもお母さんもがんばると分かりました。ぼくは、お母さんだけががんばると思っていました。ぼくたちは、250兆分の1の確率で生まれるなんてすごいなと思えました。



(保護者)

・家に帰ってから、子どもが「僕生まれた時どう思った？」と聞いてきたので、その時うれしかった気持ちや、病室の窓から見えた新緑がとてもきれいだったことなどを話してあげました。私自身「いのちの教室」に参加し、出産した時のことを思い出し、胸が熱くなりこみ上げてくるものがありました。あらためて、大きく成長してくれてありがとうという気持ちになりました。子どもを叱ったりすることもあります。産まれてきてくれた時の喜びを思い出し、これからも命の大切さを教えながら、成長を見守っていききたいと思えました。参加して良かったです。